

知床の森から



平成元年11月 第6号

森林レク

晩秋の知床を満喫

十月二〇日・二四日の両日、第四回「森林レクリエーション・秋の知床」を行いました。管内の六〇歳以上の方々を対象に、一般参加募集をしたところ、募集人員三〇名の二倍以上の七八名の応募がありました。できるだけ多くのかたに参加していただくため、当初一回の予定のところ回数を増やし、二回に分けて行うことにしました。一回目の二〇日は雨の中の知床五湖巡り、雪と雨と風に加えて濃霧の知床峠と、激しい自然の様子を体験することとなりました。また、二回目の二四日は曇りの天気、既に羅臼岳は五合目までは雪に覆われ、冷たい風の中の知床五湖巡りとなりました。ツアー一行が冷えきってもどって来ることを案じ、知床森林センター職員心を込めた熱い「マツタケのお吸物」でもてなしたところ大変喜んでいただきました。

また、参加者全員に帽子をかぶった手作りのドンダリのアクセサリを記念品として配付したところ、「かわいいね」、「手作りの暖かさが伝わって来るわ」と喜ばれました。

野葡萄の甘き四・五粒、 峡の雨 水本 森々 (北見市)



一湖で泳ぐ水鳥を観察

後日に今回のイベントの時の写真を、ミニアルバムにしてお送りし、あわせてアンケートを実施しました。その中で北見の女性は「今まで多くのイベントに参加しましたが、今回のようにサービスのよいイベントは初めてです。お役所のイベントは堅いという考えが有りましたが、手作りで暖かみのある楽しいイベントに参加させていただきありがとうございます。等多くの御礼の返事に職員一同喜んでおります。」

僕にも、私に



斜里町の産業振興を図ることを目的とした、第十回「しれとこ産業まつり」が十月一日、斜里町で行われ一万六千人の参加者でにぎわいました。知床森林センターも昨年に引き続き参画し、知床国有林の紹介と、知床森林センターの業務内容を町民にPRしました。

動・植物の写真パネル展示、知床の動物ビデオ放映、航空写真の立体視、年輪当てクイズ、丸太切り体験、キノコ展示等、豊富な内容で知床国有林を紹介しました。太さ六〇cmのセンノキ年輪当てクイズでは、二八九名の応募があり正解者

知床野営場冬ごもり

今年、野営場内でクマガラが営巣し、雛が何時巣立ちするかやきもきさせましたが、七月に無事に三羽の雛が巣立ちました。

知床野営場は、今年も九月二五日で冬ごもりに入りました。

今年の野営場利用者は八八二一名と、昨年より若干減少しました。野営場外でのキャンプの増加、七月・八月の減少が目立つなど、利用者側の変化がみられます。

来年度に向け利用状況等を分析して、利用しやすい野営場へと対応を工夫しているところです。

マツタケみつけた!



今年、山の幸の大豊作、知床国有林でもヤマブドウ・コクワ・ドンダリ・キノコが大豊作。中でもマツタケ・マイタケなどのキノコが大発生しました。

マツタケは今まで当センター職員も知床でとれることが知らず大喜びでした。発生場所は企業秘密です。ので悪しからず。

知床半島で新たに

一種類の植物確認

知床半島の高等植物の概要は、ほぼ把握されている段階で、今までに八一七種が確認されています。今回、知床森林センター職員によりウリノキ、ベニバナシヤクヤクの二種類が新たに確認されました。また、動物についても生息が十分予想されたが確認されいなかったニホントカゲについても、捕獲し写真撮影を行うなど、知床森林センターでの新たな確認が続いています。

